

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町蒲船津333-1 (電話) 0944-72-7333		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 27 日	評価結果確定日	平成 26 年 3 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を安心して送って頂ける事を理念に掲げて職員一同細やかな質の高いケアを目指している。利用者様と一緒に苗植えし収穫した野菜を調理に使い喜びを共有したり、ご家族による折り紙教室を開いて頂き作品を掲示して楽しんで頂いている。またご家族との連絡を密にとり信頼関係を築くと共に重度化しても少しでも長く利用者様らしく生活して頂ける様に訪問看護との医療連携でPTによるリハビリも含めて生活の質が保たれるよう努めている。地域の一員として民生委員さんの研修受け入れでの講義や運営推進委員さんの要請で公民館で地域の方へ講義を行い、認知症や施設への理解を得る事で地域社会への貢献に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 26 年 2 月 21 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

建設中の幹線道路ができればより便利になる地域の中にある、モダンで欧風調の2階建て事業所である。公民館や神社が隣接し、裏には公園予定地がある。買い物も散歩のついでに行けるほど近くにあり、暮らしやすい環境にある。職員は、安全かつ尊厳あるケアを目指し、毎月のミーティングや勉強会で職員のスキルアップを図っている。また管理者は、外部の認知症講演会で講演を行ったり、認知症研修会のために小学校へキャラバンメイトとして出向くなど活動的である。事業所内も落ち着きがあり、不快な音がなく遮光カーテンで配慮し、居心地よく過ごせるような工夫のある事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につくところに掲示して、いつでも確認出来る様にしており、職員全員で共有出来る様になっている。	事業所独自の理念があり、毎日朝礼の時に唱和し、事業所内の目につく所に掲示している。毎月実施の会議でも話し合い、言葉かけや態度など理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として区費を納めている。地域の行事にも参加の機会があり、交流を図っている。また、日常的に散歩の時等に挨拶を交わしている。	自治会に加入し、法人と合同の事業所便りを区長に配布している。地域の秋祭りや公民館での餅つきに参加したり、事業所合同の秋祭りを地域の方々に呼びかけ参加を得ている。高校生の実習生を受け入れたり、老人会では認知症講演会を開催するなどの交流がある。隣近所の人とは、日常的に挨拶をする間柄が築かれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会からの要請を受けて、10月に地区の公民館で、認知症の講演会を行い、認知症を身近な事として受け止めて、施設への理解を頂きました。また、町の民生委員さんの研修会を受け入れました。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用状況、行事・研修報告を行うと共に、委員さんの意見で地区の方に認知症の講演会を開く等して、意見や提案をサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族・行政・区長・民生委員の方などが出席されている。委員の意見で認知症講演会を行ったり、利用状況を書面で提示するなど、会議での意見を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いている。欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行っている。また、事例によっては、連絡相談しながら、検討している。	介護保険更新の手続きで足を運ぶ以外にも、後見人について地域包括支援センターに相談に行っており、何かあればすぐに行政との行き来をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会等で身体拘束の内容と弊害について全職員認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠せず、利用者様の所在を職員同士常に声掛け確認しつつ、職員の連携で安全かつ尊厳あるケアをめざしている。	日中、居室・玄関は施錠しておらず、玄関に鍵をつけている。外出傾向の方への対応は、引き留めることなく一緒に付き添うようにしている。身体拘束のマニュアル、外部・内部研修があり、安全かつ尊厳のあるケアを目指す勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会を行い、毎朝の申し送り時や月1回のケア会議等に話し合い、注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画を立て、内部研修を行い、外部研修も予定して学ぶ機会を持っている。また、成年後見人制度等のパンフレットを玄関に準備し、配布して情報提供を行っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について契約時に利用者・家族に説明を行っている。玄関にパンフレットを設置し、問い合わせはその都度対応している。また、外部研修にて職員が学ぶ機会を設け、伝達研修を行うようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を説明し、疑問点を確認し納得していただけるまで説明し、同意を得られる様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、地域の委員さんから、外部からの意見を伺い施設運営を図っている。また、ご家族には面会時に状態報告を行うと共に、意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。	日頃から利用者や家族より意見・要望を聴き、運営に反映させている。熱発時にこまめに体温・血圧・脈拍を測ってほしいという意見あり、迅速に応えるようにしている。意見箱を設置し、苦情に関する窓口についての説明も繰り返し行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、職員の意見を聞き入れている。また、朝の申し送りや月1回のケア会議等では、問題提起を行う事で、意見や提案を出しやすい環境を作り、運営に取り入れている。	自己評価は全職員で取り組み管理者が取りまとめている。月1回、会議・勉強会を開催し、年1回は面談を行って精神安定・ケア向上につながるよう取り組んでいる。また、管理者は普段から職員の意見を聞き入れ、提案しやすい環境をつくっている。困難事例は管理者が迅速に対応し、職員の不安を取り除くよう努力している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話やすい関係性を作り、面談時には思いを聞くようにして、精神的安定を図る事で、ケアの向上に繋がるようにしている。また、希望休や有給を利用し働きやすい職場の環境作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢、宗教など個人的な事は重視せず、福祉や社会貢献に対する思いを評価するようにしている。また、地域行事、ボランティア活動、PTA活動や研修会への参加や講演会の開催なども推奨している。	採用時、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしており、管理者が面接にも入り、福祉や社会貢献に対する思いを評価するようにしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護事業において基本ととらえて、事業所の理念を周知している。また、介護の現場における接遇についても、研修会を開き疑似体験をする事で、自らの事として捉える機会を設けている。	人権啓発活動に取り組み、全職員は内部研修を行い、高齢者の疑似体験をすることで、利用者の気持ちを学ぶ機会をつくっている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、内部への伝達研修を行う事で、個々の力量の向上に努めている。また、法人内の研修や外部の講師を招いて、ケアの向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、交流の機会を作っている。また、他施設への訪問や電話での問い合わせ、会合への参加等で意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談の際に、本人が何に困り不安で、今後どのような生活を送りたいのか利用者様ご本人の気持ちと向き合い、傾聴する事で安心を確保する為の環境作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や心配事等に耳を傾けながら、本人とご家族の思いや関係性はどうか現状把握に努め、求めている本当のニーズや気持ちを探りながら情報交換し、信頼関係を築くよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人、ご家族それぞれの思いを理解した上 で、利用者様の心身機能状態に応じた介護の 優先順位を定め、安心・納得しながら利用で きるようサービスの利用の調整を行っている。 。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意思を尊重し全て介護するのでな く、不十分な所を支援できるよう努めている。 また利用者様と一緒に食事やレク、洗濯 物を干したり等、利用者様のこれまでの暮ら し方を大切に支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	利用者様とご家族が疎遠になることなく面会 及び外出されており、利用者様が体調異常時 の場合ご家族へ報告し、必要であれば病院受 診を施設側に委ねきりになることなく支援し て頂いている。面会時には随時、本人の状態 を報告し、ご家族と共に生活支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの人や場所についてご家族 や本人の会話の中で把握しており、本人が外 へ行きたい時は安全面に考慮し、本人が納得 されるまで付き添い支援している。	利用者の馴染みの人や場を家族から聴取して 把握しており、個別に買い物や馴染みの所へ 行くなど、外出を支援している。また、系列 施設の合同行事に参加し、なじみの方と交流 して今までの関係を継続できるよう努めてい る。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者様同士、食事やレク参加で きるよう場の提供に努め、利用者様が孤立に ならないよう支援している。また誕生会等行 事へ参加して頂く事で、他者へ御祝いや御礼 の言葉を述べて頂き、人間関係が疎遠になら ぬよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	一例として、長期の入院の為契約を終了され たが、病院への面会や、家族からの相談を受 け関係性を継続していました。その後転院は ありましたが、退院の運びとなり再度利用と なりました。施設入所等の時も面会に伺っ ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で本人の思いや希望等を聞き出せるように把握している。意思疎通が困難な方には生活歴やご家族からの情報等を参考にして本人本位の支援に努めている。	全職員は日常の関わりの中で利用者と信頼関係を構築していき、思いや考えを上手く引き出している。利用者一人ひとりの気持ちの把握に努め、意思疎通が困難な方への配慮も行い、職員間の情報の共有をめざしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中から聞きとったり、ご家族から生活歴等をお聞きし、情報提供書等を用いてアセスメントを十分に行い、サービス利用の経過の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日誌・排泄・水分チェック表等で生活パターンの現状の把握を行っており、細かい観察や状況の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の心身状態の変化や状況を把握し、本人に携わる家族や介護看護医療との連携で情報交換し、ケア会議の中でモニタリングを行っており、本人が望むプランになるよう本人の気持ちに反映した介護計画になるよう努めている。	担当職員が中心となり、家族や主治医と連携し情報を共有して、利用者の意向を汲み、寄り添う計画書ができています。見直しは3ヶ月に1回または随時行っている。家族が来所時には説明し、署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づき等を日々個別記録に記載し、また申し送りや月1回のケア会議を利用し全職員が情報を共有し、よりよいケア介護計画の見直しや実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療受診は本来、ご家族対応になっているが、緊急時や家族対応不可の場合は職員が受診に同行している。また医療連携体制を整え、訪問看護による健康観察や医療相談、夜間の緊急時等の対応で安心感を得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんを招いての講習や公民館で地域住民の方へグループホームの特性や認知についての講習会を行うことで、地域資源への協働を呼び掛けている。地域行事の祭り事では、施設へ立ち寄っていただいたり、訪問理美容の利用や買い物支援を行い、地域とのつながりを保つよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望するかかりつけ医の受診をしており、往診希望の方は協力医に相談し往診に来て頂いている。通院が困難な方にはご家族と話し合っ、通院介助の方法や情報の伝達について話し合い、ご家族付き添いの場合は手紙や電話で報告している。	基本的には、利用開始前の経過や現在の希望などを踏まえ、家族がかかりつけ医を決定し、毎回の受診介助も家族が行っている。やむを得ない場合や急な状況変化の時は、職員が対応する事もある。受診後の情報については、職員と家族での共有がなされている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に電話相談24時間体制をとっており、異常時すぐに相談し適切な指示をもらい利用者様が受診や看護を受けれるよう連携をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、治療に専念できるよう、ご家族・病院関係者と情報交換を密に行い、日々のケアについても情報提供を行い、本人のストレスや負担を軽減できるようにしている。退院時は病院側から情報をもらいスムーズに退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族へ事業所の方針を説明し理解して頂き同意を得ている。また、状態変化時その都度ご家族へ報告、確認をとり職員・医療関係者と全員が情報を共有し安楽に生活が行えるよう取り組んでいる。	事業所の対応方針は明文化されており、利用開始前に家族へ説明している。かかりつけ医、家族と話し合い、どのように支援を行うかを確認している。事業所が対応し得る中でできるだけケアを行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は速やかに訪問看護へ連絡している。応急手当は訪問看護より指導を頂き全ての職員が実践できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署と合同で行いました。また、昨年3月には夜間想定訓練を行い、運営推進会議の委員さんにも参加していただきました。	マニュアルに基づき、年2回避難訓練を実施しており、うち1回は消防署が立ち合っている。避難誘導や消火器の使用の確認等を実施、地域住民に参加を呼びかけている。非常用備品は事業所内に準備している。地域で水害に見舞われた事があり、その時の対応や気づいた事などを、訓練の際や日常生活において役立たせている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を傷つけないよう、さりげない声掛けやプライバシーに配慮した対応をしている。職員の不適切な対応がみられた場合は職員間で声掛け合い、また話し合いを行うことで意識向上を図っている。	プライバシーの保護、個人情報の取扱いに関して、内外部での研修を受けて、細心の注意を払っている。職員は利用者一人ひとりの思いや行動を察知し、常に利用者目線で物事を考え支援にあたる努力をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを十分に受け入れることができるように居室で一对一で話したり、散歩中に思いを聞いたり、一人ひとりの利用者様とゆっくりと傾聴することを心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の身体状態により食後は休んで頂く方、居室で過ごすのを好まれる方、テレビを観て過ごされる方、個々の意思を尊重しその方の希望にそって支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや希望に応じてオシャレに配慮している。本人持参の化粧品や乳液など自由に使える喜びを感じ、精神的な安定が得られるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者様と一緒に食事をする事で団樂を楽しんで頂き、お皿の位置を変えるなどの配慮をしている。また、職員と一緒におぼん拭きなど手伝って頂き、その方の能力に応じた支援を行っている。	和やかな雰囲気の中、職員も利用者と同じテーブルにて同じ食事を摂っている。食事の準備・片付けを利用者もともに行っており、利用者と職員が協力して育てた野菜を収穫して食材とすることもある。一人ひとりの嗜好を確認して献立に反映させており、また栄養バランスにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせたバランスの良い食事や、一人ひとりに合わせた食事形態を提供している。食事・水分量のチェックを行うことで、摂取量の把握に努め、摂取量が少なければ看護や医師に相談している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう毎食後口腔ケアを行い、自立を促し声掛け見守りを行っている。義歯の方は就寝前にポリドント消毒を行い、口腔内の清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェックをつけ、なるべくトイレで排泄していただくよう利用者様の表情やしぐさから排泄パターンを読み取り、さりげない排泄誘導を行っている。	利用者一人ひとりのサインを見逃さないように見守りをするとともに、排泄チェック表の確認によりパターンを予測、定時の声かけ・誘導を行っている。失禁した際は慌てずにさりげなく対応、支援を行っている。できる限りおむつ等に頼らないように本人の尿意・便意を促す努力をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある物の食事の提供や水分量が少ない方には、飲み物の工夫で飲みやすい飲み物を提供したり、牛乳の飲用を勧めている。また声掛けにて身体を動かしていただき、腸の動きの活性を図っている。必要時は、便秘薬や坐薬で排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴を行っており、入浴したい時に入浴して頂けるよう声掛けを行い、利用者様の希望にそうように日や順番を調整している。また、湯の温度や入浴にかかる時間を一人ひとりに合わせ入浴を楽しんで頂いている。	毎日対応できるように入浴の準備をしている。ゆず湯を用意したり、好きなシャンプー・リンスを使うようにするなど入浴が楽しめるような支援を行っている。入浴拒否がある際は職員を入れ替えたり、時間をずらすなどして随時対応している。一人ひとりの意向に耳を傾けるように努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調に応じ枝t自由に休息・就寝して頂いている。日中レクレーション等で活動を促し、生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用、副作用を理解した上で与薬を行っている。与薬忘れがないよう職員間で声掛けし合いチェック表に毎回印をつけている。症状の変化時は訪問看護へ報告行い、指示を得て与薬を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や好みを把握し、楽しみを取り入れたレクリエーションを行ったり、本人の力を生かした役割をしていただく事で日々の生活が張り合いのあるものになるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聞いて日用品や食料品店に買い物に行ったり、周辺を散歩やドライブして戸外に出かけられるよう支援している。また誕生会では行きたい所を尋ね、道の駅へお連れ、本人の思いにそって外出支援を行っている。	天候や体調を確認しながら、ほぼ毎日、散歩や買物などの外出をするように努めている。月1・2回は、季節の花を眺めに行ったり道の駅を訪れるといったドライブを行っている。スナップ写真や集合写真をできるだけ多く撮るようにしている。外出を通して、利用者と職員がともに楽しめるように努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者はお金を所持しており、買い物等の支援をしている。金銭管理が難しい方には御家族と相談し、事業所で金銭を預かり管理しており、本人の要望時にすぐ使えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙のやりとりができるようにしている。利用者の中には、携帯電話を持ってある方もおり、御家族や友人とコミュニケーションを図っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心掛けている。冬は乾燥している為、フロアを加湿し室温調整に配慮している。季節に応じた飾り付け等、利用者と一緒に其の時期の季節を感じていただいている。	家庭的な雰囲気や季節感を感じられる飾りや置物で整えられ、不快な音がなく、遮光カーテンの配慮も行われている。掃除も行き届いており、トイレも臭いがなく清潔である。トイレや浴室、居室がわかるように表示に工夫をし、混乱しないような配慮が見られるなど、居心地の良い空間になっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中央にはテレビ・ソファを置き、利用者様のコミュニケーション作りができるようにしている。また、少し離れのベランダ側にもソファを置き、一人になれるスペースや2～3人で過ごされるよう場の提供を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使われていた家具・テレビ・洋服タンスなど、使い慣れた物を持って来てもらい、本人様が居心地良く落ち着いて生活できるように工夫している。	居室内は筆筒、テーブル、飾り棚などの家具の他、写真、家族の作品など一人ひとりの馴染みの物が持ち込まれている。居室は一人ひとりの日常生活動作に合わせた、過ごしやすい雰囲気を大事にしている。エアコンも完備していて寒暖に備えている。窓からの光も射しており、朝日を感じ取る事ができる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用者様が安全・安心してトイレができるようにと広い空間をとり、一人ひとり利用者様の身体機能に合わせ危険の防止や自分の力を活かして動けるようなベッドの高さに合わせており、また安全に歩行ができるように通路には全て手すりを設備している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
			○	③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につくところに掲示して、いつでも確認出来る様にしており、職員全員で共有出来る様になっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として区費を納めている。地域の行事にも参加の機会があり、交流を図っている。また、日常的に散歩の時等に挨拶を交わしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会からの要請を受けて、10月に地区の公民館で、認知症の講演会を行い、認知症を身近な事として受け止めて、施設への理解を頂きました。また、町の民生委員さんの研修会を受け入れました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用状況、行事・研修報告を行うと共に、委員さんの意見で地区の方に認知症の講演会を開く等して、意見や提案をサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いている。欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行っている。また、事例によっては、連絡相談しながら、検討している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会等で身体拘束の内容と弊害について全職員認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠せず、利用者様の所在を職員同士常に声掛け確認しつつ、職員の連携で安全かつ尊厳あるケアをめざしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会を行い、毎朝の申し送り時や月1回のケア会議等に話し合い、注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画を立て、内部研修を行い、外部研修も予定して学ぶ機会を持っている。また、成年後見人制度等のパンフレットを玄関に準備し、配布して情報提供を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を説明し、疑問点を確認し納得していただけるまで説明し、同意を得られる様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、地域の委員さんから、外部からの意見を伺い施設運営を図っている。また、ご家族には面会時に状態報告を行うと共に、意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、職員の意見を聞き入れている。また、朝の申し送りや月1回のケア会議等では、問題提起を行う事で、意見や提案を出しやすい環境を作り、運営に取り入れている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話やすい関係性を作り、面談時には思いを聞くようにして、精神的安定を図る事で、ケアの向上に繋がるようにしている。また、希望休や有給を利用し働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢、宗教など個人的な事は重視せず、福祉や社会貢献に対する思いを評価するようにしている。また、地域行事、ボランティア活動、PTA活動や研修会への参加や講演会の開催なども推奨している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護事業において基本ととらえて、事業所の理念を周知している。また、介護の現場における接遇についても、研修会を開き疑似体験をする事で、自らの事として捉える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、内部への伝達研修を行う事で、個々の力量の向上に努めている。また、法人内の研修や外部の講師を招いて、ケアの向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、交流の機会を作っている。また、他施設への訪問や電話での問い合わせ、会合への参加等で意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談の際に、本人が何に困り不安で、今後どのような生活を送りたいのか利用者様ご本人の気持ちと向き合い、傾聴する事で安心を確保する為の環境作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や心配事等に耳を傾けながら、本人と御家族の思いや関係性はどうか現状把握に努め、求めている本当のニーズや気持ちを探りながら情報交換し、信頼関係を築くよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族それぞれの思いを理解した上で、利用者様の心身機能状態に応じた介護の優先順位を定め、安心・納得しながら利用できるようサービスの利用の調整を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付けや洗濯たたみ等を手伝って頂き、利用者様の今ある能力を最大限に活かしている。また花や野菜を一緒に育てながら共に活動する中で、楽しみや感動を共有し共感しながら支え合う関係を大切にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたご家族には、日頃の様子や変化などをお話しし情報の共有を図っている。受診の同行やご家族との外出のほか、誕生会と一緒に参加して頂いたり、行事への参加の呼びかけを行い、本人とご家族との関わりを絶やさないよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物等の個別外出の機会を設け、馴染みの場所へ出かけられている。また、友人や知人の面会のほか、同系列施設の合同行事があり、馴染みの方と交流して頂いたり、これまでの関係が継続できるよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が和やかに過ごせるよう座席の配慮を行い、利用者間のトラブルも職員が間に入り共に生活が楽しめるよう努めている。また、気の合う方同士でソファに座って頂いたり、居室にてお話されたりと環境作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一例として、長期の入院の為契約を終了されたが、病院への面会や、家族からの相談を受け関係性を継続していました。その後転院はありましたが、退院の運びとなり再度利用となりました。施設入所の時も面会に伺っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で利用者様の思いや意向について声掛けし把握するようにしている。意思疎通が困難な方には過去の事やご家族の意見を参考にしながら、本人支援に努めている。利用者様の思いはご家族と共有するようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時に生活歴を聞き、その方の生活環境を知りサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を行い、体調の変化や生活支援での情報を職員で共有している。毎日の申し送りや月1回の会議で意見交換を行い、有する力等の現状把握に努め支援の統一を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の心身状態の変化や状況を把握し、本人に携わる家族や介護看護医療との連携で情報交換し、ケア会議の中でモニタリングを行っており、本人が望むプランになるよう本人の気持ちに反映した介護計画になるよう努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づき等を日々個別記録に記載し、また申し送りや月1回のケア会議を利用し全職員が情報を共有し、よりよいケア介護計画の見直しや実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療受診は本来、ご家族対応になっているが、緊急時や家族対応不可の場合は職員が受診に同行している。また医療連携体制を整え、訪問看護による健康観察や医療相談、夜間の緊急時等の対応で安心感を得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんを招いての講習や公民館で地域住民の方へグループホームの特性や認知についての講習会を行うことで、地域資源への協働を呼び掛けている。地域行事の祭り事では、施設へ立ち寄っていただいたり、訪問理美容の利用や買い物支援を行い、地域とのつながりを保つよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望するかかりつけ医の受診をしており、往診希望の方は協力医に相談し往診に来て頂いている。通院が困難な方にはご家族と話し合っ、通院介助の方法や情報の伝達について話し合い、ご家族付き添いの場合は手紙や電話で報告している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に電話相談24時間体制をとっており、異常時すぐに相談し適切な指示をもらい利用者様が受診や看護を受けれるよう連携をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、治療に専念できるように、ご家族・病院関係者と情報交換を密に行い、日々のケアについても情報提供を行い、本人のストレスや負担を軽減できるようにしている。退院時は病院側から情報をもらいスムーズに退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族へ事業所の方針を説明し理解して頂き同意を得ている。また、状態変化時その都度ご家族へ報告、確認をとり職員・医療関係者と全員が情報を共有し安楽に生活が行えるよう取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は速やかに訪問看護へ連絡している。応急手当は訪問看護より指導を頂き全ての職員が実践できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署と合同で行いました。また、昨年3月には夜間想定 の訓練を行い、運営推進会議の委員さんにも参加していただきました。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳やプライバシーに配慮した声掛けや対応に努めている。職員会議で個人の尊厳について話し合い職員の意識向上を図っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人が思いや希望を意思表示できるように言葉かけして、自分の意思で行動できるよう待つ姿勢で自己決定ができるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事に食事や入浴の時間も利用者様に合わせ、テレビを観たり本人が望む一日の過ごし方を希望にそって支援している。またご家族と外出外泊を楽しまれたりご家族との連携もとりながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族から好みの服を持ってきていただいたり、入浴後は美容液を塗ったりお化粧品やマニキュアをしたりとオシャレを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて食事の準備や後片付けを一緒に行い、職員も利用者様と一緒に食事を摂っている。またプランターで栽培した野菜など調理に使用し、ご自分で育てた野菜を食べ食事を楽しむことができるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員で全利用者様の食事、水分量の確保を心掛け、一人ひとりに合った食事、水分の提供を工夫行っている。体重増減を確認する為、月1回測定し、状態変化の把握に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い、磨き残しや口腔状態を確認し、できるだけ自力で歯磨きしていただくよう促している。うがいが困難な方へは、ガーゼ清拭を行ったり、舌のスキンケアが必要な方へも口腔スポンジ等を利用し口腔内の清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中トイレ誘導を行い、トイレで出ない方には腹圧をかけ、排尿・排便を促している。また、自らトイレの訴えがない方には排泄パターンを把握し、こちらからトイレの声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、日頃から水分・食事をその方にあった物を提供し、体操等の参加で運動を促している。また、排便がない際は、坐薬や下剤を使用し排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にし、入浴日や時間帯を決めるのではなく、一人ひとりの意向を第一に寛いだ気分で入浴できるように支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で本人にとって自然なリズムが生まれる様に、生活習慣やその時々状況に対応し、総合的に把握した上で夜間の睡眠につなげている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用、副作用を理解した上で与薬を行っている。与薬忘れがないよう職員間で声掛けし合いチェック表に毎回印をつけている。症状の変化時は訪問看護へ報告行い、指示を得て与薬を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとりに合った時間を取り、好まれる作業や役割の機会や場を設けることで気分転換や外出など行い、楽しい時間を過ごして頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に寄り添い、花見学やドライブ・買い物や行ってみたい場所への外出を行っている。また地域の方との交流も兼ねて近くの公民館で餅つきの行事にも参加し、日常的自立に向け外出支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてご自分で管理されている。金銭の管理が難しい方でもこちらで預かり、本人の食べたい物、生活面で足りない物の希望を聞き、スタッフと一緒に買い物に行き、散歩も兼ね気分転換を図っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の中には携帯電話を持たれている方もおり、御家族や友人と連絡を取られている。電話や手紙の要望があれば、職員が取り次ぎしたりの支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりに合わせた温度調整や光の入り具合を考慮し、場所を移動したりして居心地良く暮らせる様に配慮している。また花を飾ったり、手作りの作品を掲示し季節感を演出している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下・バルコニーに椅子やソファを置き、寛ぎの時間に新聞を読まれたり、談話されたりと利用者様が思いに思いに過ごせるよう工夫している。また集団を好まれない方には個別に対応し、独りでも安全に過ごせるような居場所作りを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人やご家族と相談しながら馴染みのある家具や寝具等を持参していただき、少しでも落ち着いて居心地良く過ごして頂けるよう支援している。テレビや冷蔵庫等の家電も希望があれば可能である。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子やシルバーカーを使用されている利用者様も安全に移動ができるような家具等の配置を行いスペースを確保している。居室の入り口には顔写真を飾り、トイレや浴室の表示を分かり易くすることで認識間違いを防げるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない